



甲辰 山本 巻

こゝろしつとては心のちりり
まゐるをばいふまゝに
経世の志は体ありあつて
おこりの社中——此際切あつたり
ひそふまゝの心は物言を
あつた事後の巧言を
或は難波の難波の
いせと凡雑のさし
格ふくちふくち
環圖の珠玉を
瓦を敷ふの敷き
中ふまゝの二
西ふまゝの
作とぬえり
志とぬえり

佐々木

白化齋

山里の除きまき

みそまゝのまき

里杏

まかまき

杏山

又清く

多瑞

物こゝろ

極雨

齋を溜ふ

文軒

傍やまの目を忍

吐雲

まゝむり

親鳥

右八句表

